

発言者	会議の経過 / 発言内容
<p>・委員</p>	<p>1 開会</p> <p>2 座長挨拶</p> <p>3 委員等出席者の紹介</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>ア 定住自立圏構想の概要について〔資料1・資料2〕 事務局から説明</p> <p>イ 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会について〔資料3〕 事務局から説明</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>ア 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン掲載事業における事業管理について〔資料4〕 事務局から説明</p> <p>イ 北播磨広域定住自立圏共生ビジョンの進捗状況等について〔資料5〕 事務局及び担当職員から説明</p> <p>【質疑応答等】</p> <p>・地域医療構想が県でまとめられました。これは、2025年、いわゆる団塊の世代が75歳、後期高齢者になるその時代にあるべき医療の姿を想定し、その25年に向けて病床の機能を調整していくということで、構想が提示されました。地域医療構想が出てきた背景は、医療費がかなり高騰し、三十、四十兆円という状況になり、それを何とか絞り込む必要があり、病床を減らすというような目的で構想を練るというものです。北播磨においてもそういった今ある病院の全ての病床数、これが本当に必要な量なのかどうかというところの検討もされて、今はっきり出てきているのは、病院が高度急性期あるいは急性期、それから回復期、療養病床の区分がされているが、高度急性期の病床が足りないということです。</p> <p>一方で、診療報酬の改訂ということがあります。今、市立西脇病院、市立加西病院など急性期を要望して病院経営をやっていますが、それを維持するための数字がかなり高いところに引き上げられました。患者さんがどれぐらい重い病気を持って入院をされているのかという割合を計算して、全患者に占める割合が25%を下回ると、急性期の病床というのは維持できないという形になっています。</p> <p>そういったことを考えてみますと、将来的に地域包括ケアシステムの構築をしていきなさいというようなことにはなっているのですが、地域の中核となる病院があるというのが前提になってまいります。</p> <p>急性期、急に病気になった、あるいは重い病気になったというときに診てもらえる病院がその地域にないとすると、そういったシステムはまず構築できません。そういう意味では、何とかそのような急性期を維持するためにしっかりと方向性も含めて、きちっと対応をしていかなければいけないと思います。今ここに計画を上げており、そういった連携をとることは当然必要なことですが、それ以前にきちっと医療体制も維持できるような努力を続けていかないと非常に難しい状況になります。</p> <p>それに加えて、医師不足というところがあり、市立加西病院においても、この4月に医師が5名減り、入院患者が激減した状況になっています。なかなか田舎の病院に医師が来ていただける体制がなく、医師が少ないというのもあります。もうしばらくすると、医学生の数が増えてきますので、供給がされる状況にはなってくると思っていますが、まだ2～3年は辛抱しないといけません。</p> <p>今の状況を言いますと、市立西脇病院が実は過疎地対策ということで、県のほうから医師の派遣がされています。加東市民病院あるいは市立加西病院についてはそういった支援がございません。このたびの地域医療構想の中で、そういう圏域の医師不足ということにも対応していく必要があるという文言が入っていますので期待をしながら、できるだけ地域医療体制を守っていくことについて努力していきたい</p>

	と考えています。
・ 座長	・ 地域医療構想ということで、今この地域が抱えている総論的なことを解説していただきました。進捗状況が「1」の、地域医療連携室連携強化事業は、先ほどのお話と関連しますが、全く未実施ではなく、もう既に実施しているような印象を受けました。
・ 担当	・ 今言われたようないろいろな課題が多数出てきています。研修会など具体的な取組は体制作りが必要で、それぞれの施設の考え方を確認しつつ、診療報酬に対応できるような体制を検討しており、平成27年度は未実施としています。
・ 副座長	・ 8番の「質の高い教育環境の整備」で、大学との連携講座事業を数年前から加西市、加東市、西脇市、多可町との個々の連携講座のほか、北播磨5市1町との連携講座を開催させていただくなど、さまざまな分野で大学の資源を活用していただいております。 ・ それぞれの教育関係のスポーツ、図書館においても、順調に事業進捗しています。住民生活において、教育面、スポーツ面の活性化は非常に重要なことなので、ますます事業を展開していただきたいと思います。
・ 委員	・ 東播磨・北播磨地域のスポーツ推進委員の協議会の関係で、幾つかの事業を実施しており、その中で、3市1町の皆さんともいろいろな事業の交流を深めています。次年度、地域に向けての連絡協議会の開催は、スムーズに話し合いができるのではないかと考えます。もう既に急ペースで調整をさせていただいているようですが、効果的な事業が実施できるように十分内容を検討していきたいと思います。
・ 座長	・ 7番の文化・スポーツ振興で、条例改正に伴う調整が必要ですが、条例改正は、いつぐらいになりそうですか。また、比較して申し訳ないが、図書館の連携が進んでいるような感じがするので、そこの違いがみられるのかを解説いただきたいと思います。
・ 担当	・ 7番の条例改正について、各施設には料金設定がしてあります。料金設定が市内と市外とで分かれている市町については、市内料金、市外料金を圏域内は市内料金と同額とする条例改正が必要です。できればこの平成28年度中に議会に提出していただいて、翌年からは同じ圏域内市内料金で利用できるようにしてほしいということで調整をしてもらっているところです。
・ 委員	・ 地域ブランド、創業支援もそうですが、各市町とも共同してやるのか、それともそれぞれの市が単独で進めていくのでしょうか。例えば播州織は西脇市、播州釣針は加東市になるので、それと関係団体との連携はどのような形で進められているのでしょうか。 ・ 創業支援は行政単位でやっているのでしょうか。加東市の場合は商工会でも進めており、その辺の連携というのがどういう形で進んでいるのでしょうか。商工会単独で進めているほうがより現実的ということで、確実に会員増などにつながってきているので、その辺についてお聞きしたいと思います。
・ 担当	・ 平成26年1月に産業競争力強化法が施行され、各市町が法に基づき創業支援事業計画の認定を受け、創業支援事業を実施するようになりました。それまでは、各市町の商工会、商工会議所で独自で創業支援をされていました。認定事業計画では、商工会を連携機関として指定しており、現在は市と商工会とで連携して創業相談や創業塾の開催など創業支援を行っています。 ・ 昨年度と今年度は各市町で創業塾を実施しており、創業塾を1カ所で実施する案を出していましたが、各市町で時期的なものなどの統一が難しいため、平成29年度に講演会を3市1町で実施する計画をしています。
・ 担当	・ 例えば加東市であれば「こいのぼり」、多可町であれば「杉原紙」と各市町での地域ブランドはもちろんありますが、この3市1町共通しての地域ブランドとして「播州織」があります。この播州織の地場産業の振興に向けて現在取り組んでおられる北播磨地場産業開発機構に対する支援を3市1町で行うことが必要ではないかということで、今回この事業が挙がっているものです。
・ 委員	・ 例えば播州織、釣針など、今まで継続してやっている組合、グループがこういう事業を活用しようとするれば、どのように進めていけばいいのでしょうか。当然ながら、予算がついているので、同じやるのであれば利用させてもらったほうが、何らかの取組ができるのではないかなと思いますが、いかがでしょうか。
・ 担当	・ 補助金を支出する支援という形にはなりますが、3市1町集まってこれに対する支援、金銭的な面だけではなく、連携することによって支援が有効になるようなア

・座長	プローチというものを今後平成28年度以降考えていきたいと考えています。
・委員	<p>・創業支援は商工会へ委託という話が出ていたので、北播磨地場産業開発機構が現場の御意見を十分酌み取るような形で進めていただくことが重要であると聞いていて感じました。</p> <p>・北播磨地場産業開発機構の場合は、播州織に関しましては各組合、それから播州釣針に関しては播州釣針協同組合からの補助金で、それに対する地場産業、地域産業の振興という形で事業をさせていただいています。こちらの事業について、各組合とお話しいただき、いろいろな中で事業が円滑に進むように組合からの支援をいただくという形でお願いしたいと考えております。</p> <p>・11番の地場産業振興の件で、3市1町の連携による機構に対しての新たなアプローチを検討するということですが、半年ぐらい前に当財団の評議員会で、加西市の副市長様より、何か各市町が共同で取り組めるような、例えば職員の制服ということを言われました。北播磨地域のブランドとして取り組めるようなものを何かできないかというお話をいただいております、非常にありがたいと考えております。</p>
・座長	・9番の土地利用に関して、西脇市とほかの2市1町、何かばらばらな印象を受けてしまうが、これはこういう形でしか仕方がないのでしょうか。
・担当	・先ほど申しましたように、まず立地適正化計画は、平成25年8月に都市再生特別措置法が改正され、いわゆるコンパクトなまちづくり、歩いて暮らせるまちづくりを目的に立地適正化計画が創設されました。まず策定主体は基本として、各市町ということになっております。この3市1町で広域の生活圏や経済圏を形成されている場合は、連携して立地適正化計画を策定することも重要であるというようなこともうたっております。その中で、各市町で立地適正化計画が策定可能であるかどうかというのをまず検討している状況であります。各市町によって進捗状況は違いますが、西脇市については、計画を策定することのメリットもあるということで、早急に策定されている状況です。
・委員	・広域防災対応能力強化事業で、大災害に及んだときに、やはり行政だけでは処理できないことも考えられますが、青野原の自衛隊や各警察署との連携なども構想としてあるのでしょうか。
・担当	・大災害が起きた場合というのは、当然のことながら、自衛隊、警察と協定を結んでいます。3市1町におきましても、兵庫県の防災協定、関西広域連合など、広範囲にわたり災害応援協定を結んでいます。そういった中で、災害をお互いに助け合っ、一日も早い復興を目指すというふうに考えています。また、いろいろな資源、食料、資材などについても、各関係機関に応援をしていただく協定を結んでいます。
・委員	・水位上昇時、地元の公民館が一時避難場所に指定されており、避難場所は別にあるのですが、そこへ一応送り届けるといった形となっています。こういう一時避難場所は、一時的に居て、その後、避難場所へ送ったらいいのでしょうか。
・担当	・一時避難場所というのは自主防災として、各地区のほうで公民館等必ずあると思いますが、加西市においては一時避難場所の指定というのはまだやっておりません。公民館の耐震性などかなり影響するので、指定をしてしまうと、避難場所として適切でないという市町もかなりあるかと思いますが。そういった意味で、まず状況に応じ、一時避難していただくという賢明な選択もあろうかと思いますが。指定の避難場所に行くまでに被災をされたというようなこともあるので、今後、各自治会で防災訓練をやっていただきながら、一時避難所を有効に利用していただければと考えます。
・委員	・14番の備蓄資材の内容の確認のことで、消費期限があるものがかなり出てくるとは思いますが、消費期限が切迫しているものというのは、どのような形で処理をされているのでしょうか。
・担当	・加西市の場合、年2回程度の土嚢づくりの際に、消費期限を迎えるまでのものをお持ち帰りいただくとか、防災の出前講座などの場において皆様に一度試食をしていただくなど、活用しています。それに加えて、学校で防災訓練の際に子ども達に体験してもらうなど有効に利用している状況です。
・委員	・15番の広域防災体制の整備強化ということで説明を受けたわけですが、37年度までに拠点整備をするという説明がございました。今は各区に駐在所があるわけですが、夜間は無人になるというようなことで、特に夜間の緊急の場合、救急車を呼んでも遠くてなかなか来ないというような現状にあります。北播磨ということになる

	と、広域でそのような地域もそれなりにあろうかと思うので、その辺の対応というのも今回の拠点整備の中には含まれているのか質問させていただきたいと思います。
・担当	<ul style="list-style-type: none"> ・多可町には加美駐在所、八千代駐在所があり、今後署所整備計画に基づいて、24時間体制を行うということで話が出ています。それも計画的に駐在所を今後出張所として、32年度に建設完了できるように取り組んでいます。 ・他の市につきましては、消防署、それから分署というのがあり、全て24時間体制になっています。また、西脇市には黒田庄駐在所がありますが、今の加美駐在所、八千代駐在所と同じ24時間体制を行う予定としています。
・座長	<ul style="list-style-type: none"> ・18番の消費者相談窓口の相互利用で、担当課の得意分野、不得意分野がそれぞれ市町に実際あるのであれば、逆にそれを強みにした形で、例えば高齢者問題に関してはここの市の方に回すなど、そういう取組をされると、オールマイティーに平均的に答えられ、かえって連携の強みが発揮できるのではないかと思いますがいかがですか。
・担当	<ul style="list-style-type: none"> ・今、各市町の相談員につきましては、いろいろな方からの相談があるため、幅広い研修を受けています。その分野だけというのは今のところはありませんが、恐らく今後高齢者だけの分野など、それぞれの分野で研修等を受けていただいて、連携していくように進めていければと思います。
・委員	<ul style="list-style-type: none"> ・北播磨広域定住自立圏共生ビジョン39ページの公共交通広域連携調査研究事業に関しまして、現状の交通の調査研究等を行い、既存路線の再編、地域の新たな路線の実現を目指すということですが、実は3市1町の中では基本路線をつくること自体が厳しい路線が多数あります。例えば多可町の大和、大屋地区のほうから西脇市の明楽寺を通過して、それから加西市内の市立加西病院、大屋線と連携して市立西脇病院のほうに行く路線が生活交通路線としてあるのですが、その路線については、加東市民が八千代のほうまで利用されている大事な路線の一つです。ところが、その沿線人口の減少に伴いまして、路線維持が非常に困難になってきています。沿線市町の多可町、西脇市、加西市と協議した結果、平成28年4月に八千代の小学校の統廃合がありましたので、それに合わせて、既存バスも活用したスクール輸送が実現できました。それによって、利用者も増え、ひとまずは路線維持につながった状況になっています。 ・今後新たな試験運行、あるいは本格運行ということで事業計画が記載されているのですが、是非とも既存路線の試験と活用によりまして、既存バスを守りながら、地域の移動手段を確保していくということを視野に入れ、研究を進めていただきたいと思います。
・委員	<ul style="list-style-type: none"> ・運転免許の更新のたび、警察、自動車学校で指導を受けており、そこで、信号無視などが増えているので、できるだけ車に乗らないようにという話がありました。今、直営のバスを走らせている市町もありますが、乗っている人が少ないように思います。なにか乗客を増やす方法を考えているのかどうか、お聞きしたいと思います。
・担当	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスは今既存の路線バス、特に3市1町それぞれにまたがっている路線があるというような状況です。多可町でも小学校の統廃合、これによって今の路線バスを使いながら児童を運べないかというお話がありましたので、こういった協議を事業者さんも交えてさせていただいたことが、この一部実施のところで挙がっています。路線バスとコミュニティバスの両方が走っている市町もありますが、どのような組み合わせ、またどういった形で運行するのが一番よい交通体系であるかというのを十分に研究しながらしていきたいと思っています。事業者さんともその辺の協議を継続していきたいと思っています。 ・高齢者の方が非常に増えているというような現状の中で、乗られていないコミュニティバスの利用促進について各市町、課題となっています。21番の利用促進事業という部分につきましては、今まで車に乗られていますので、どのように乗っていくかわからない、乗り方自体がわかりにくい、あるいは公共交通の情報自体も余りわからないというようなことをよく言われます。そういった部分につきましては、今回取り組んでいこうとしている情報提供だけではなく、それぞれ過疎地域にも入っていくなどしながら、どういった利用促進が一番効果的であるか、それぞれの市町も当然やっていますが、これを事業者さんにも協力いただき3市1町連携した形でしていきたいと思っています。

<ul style="list-style-type: none"> ・委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど報告がありましたように、北播磨のトレッキングガイドはとても好評のようで、早速、好日山荘のイベントとして多可町の山にもお客様が来ていただいたようで、山岳部のメンバーが案内したと聞いています。 多可町の観光協会としては、今までから行っておりますオープンガーデンが好評を博していきまして、毎年5月の連休時期に合わせて行っています。二十数人の庭主さんは、多可町だけでなく西脇市の方もいらっしゃいます。多い庭では1,000人以上のお客様を集めている庭もあります。その庭に阪神方面、神戸方面からオープンガーデン行きバスも数台出ていますし、町内においても、ガーデン巡りのバスがとても好評を博しており、すぐに満席になっているような状態です。 また、庭主さん同士の交流というのがあるようで、全国のオープンガーデンの庭主さんが随分増えているようで、その方たち同士の交流、かなり遠くの地域からお見えになって個人的な交流が続いているお話も聞いています。楽しいつながりが広がっていると感じます。 一つ気になることがあり、毎年10月に多可町では千ヶ峰・笠形山仙人ハイクというのを行っているのですが、会場になる八千代区、加美区のほうで熊の目撃情報がたくさん出ました。そのために、今年度のイベントは中止になっています。こういうこともあるということもお知らせしときたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・座長 	<ul style="list-style-type: none"> ・27番ですが、意見交換会という形でそれぞれ何か強みを見出すような形でできないかということをおもいました。
<ul style="list-style-type: none"> ・担当 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会という形はありますので、それも含めて取り組む検討をしてみたいと考えています。 <p>5 その他 事務局から説明</p> <p>6 閉会 副座長</p>